

症例抄録の書き方

症例抄録番号 No.○

病名

治療開始年月日

指導施設または研修施設名

申請者氏名

指導責任者

カルテ番号(×××××○○○)下3桁のみ記載

診療概略(写真またはレントゲン等の画像を添付すること)

備考

- ・各症例は症例見本に従い術前・術後の写真に脚注をつけること。
- ・同一種であってもレーザーの種類が異なる場合、別症例とみなす。
- ・同一症例に複数のレーザーを用いた場合は1症例とみなす。
- ・同一症例は術者および第一助手までが使用することができる。

※次頁以降の「症例抄録記載の留意点」「呈示症例および症例数」「症例見本」も必ず熟読の上、症例抄録を提出してください。

症例の抄録記載の留意点

診療の概略:

- 年齢、性別を記載。
- 術前および術後の写真が必要です。
 - ・治療前、治療後の写真や画像は撮影日を記載の上添付してください。
 - ・本人が自分と判明出来ても、第三者が見て誰であるか判別出来ないこと。(家族による判明は可)
 - ・顔写真の場合は必ず目を隠す。
 - ・特徴がある場合は第三者が判明出来ないように拡大トリミングする。
 - ・治療箇所を第三者が個人と特定出来る場合は本人からの承諾書を取り付ける。
(20歳未満は親権者の箇所に署名捺印を貰う、正既婚者は成人とみなす。)
 - ・術後の写真は、原則として最終治療後3ヶ月以上経過した写真を使用する。
- 治療前、治療後の所見は必ず記載してください。
- レーザーの照射方法に関しては、使用装置、照射条件につき詳細を記載してください。
- 光線力学的診断・治療に関する症例の場合、光感受性物質の種類、投与量、使用レーザーなどは必ず記載してください。

使用装置:

- 文例:XXXXX会社製、モデルYYYYのZZZZレーザー(波長:RRRR μ m)を使用した。
 - 注:波長を記載しない例が多いです。取り扱い説明書でご確認下さい。
 - 注:よくある間違い、(正)Ho:YAGレーザー、(誤)Ho-YAGレーザー
 - 注:装置の名称は、レーザーの種類を示さないことが多い。

照射条件(連続の場合):

- 照射出力はPPPP W(ワット、大文字)で、スポット径は約ddddd mmである。
- 照射時間はttttt s(秒、小文字)である。
- 使用総エネルギーは EEEEE kJ(キロジュール、キロは小文字、ジュールは大文字)である。
 - 注:スポット径は正確に分からない場合が多いので、概略の場合は約、を付けて下さい。
 - 注:光強度を計算して記載しても良い。(その方が正確)
 - 注:総照射時間、使用総エネルギーの両方を記載しても良いし、どちらか片方でも良い。
 - 注:連続でもパルス繰り返しと連続の重畳モードを搭載している機種もある。取り扱い説明書で確認して下さい。

照射条件(パルスの場合):

- パルス幅AAAA μ sで、単発エネルギー eeeee J(ジュール。大文字)のレーザー
- パルスを、照射面積 ssss cm^2 に照射した。
- 繰り返し周波数は、rrrr Hz(ヘルツ)である。
- 総照射エネルギー密度は tttt J/cm^2 である。
 - 注:繰り返し周波数が1 Hz以下の場合は、インターバルを記載する。
 - 注:平均パワー密度(W/cm^2)を計算して表示すると良い。

付則 専門医の資格申請時に必要な経験症例・症例数および記載方法

A. 呈示症例および症例数

1. 内科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 光線力学的治療症例(呼吸器癌、消化器癌など)
- II 群 内視鏡的蛍光診断症例(呼吸器癌、消化器癌など)
- III 群 腫瘍の焼灼治療症例(呼吸器癌、消化器癌など)
- IV 群 呼吸気道および消化器出血に対する止血、凝固治療症例
- V 群 狭窄部の拡張症例(良性および癌性狭窄など)

I～V群の中から合計10症例選択し、呈示する。
ただし、同一部位の再発症例については、同一症例とする。

2. 外科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 光線力学的治療症例(呼吸器癌、消化器癌など)
- II 群 内視鏡的蛍光診断症例(呼吸器癌、消化器癌など)
- III 群 腫瘍、肉芽の焼灼治療症例(呼吸器癌、消化器癌など)
- IV 群 微小血管、組織の止血、凝固、切開症例
- V 群 血管形成術症例(閉塞性動脈硬化症、狭心症、心筋梗塞など)

I～V群の中から合計10症例選択し呈示する。
ただし、同一部位の再発症例については、同一症例とする。

3. 産婦人科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 蒸散術症例(子宮腔部びらん、子宮頸部異形成など)
- II 群 円錐切除術症例(子宮頸部の異形成、上皮内癌、微少浸潤癌など)
- III 群 焼灼術症例(腔上皮内癌、コンジローマ、頸管ポリープ、分娩筋腫、腔断端肉芽、バルトリン嚢腫開窓術など)
- IV 群 腹腔鏡下手術症例(不妊症、子宮内膜症、婦人科癌など)
- V 群 内科的レーザー治療症例(疼痛緩和、無痛分娩、浮腫、創傷や挫創の治癒促進、不妊症など)
- VI 群 光線力学的治療症例(早期子宮頸部癌など)

I～VI群の中から2群以上を選択し、

4. 泌尿器科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 上部尿路結石破砕治療症例(経尿道的、経皮的:腎・尿管結石など)
- II 群 下部尿路結石破砕治療症例(経尿道的:膀胱結石、尿道結石など)
- III 群 尿路狭窄治療症例(経尿道的、経皮的:尿管狭窄、腎盂尿管移行部狭窄、尿道狭窄、後部尿道弁など)
- IV 群 尿路上皮腫瘍治療症例(経尿道的、経皮的:腎盂、尿管、膀胱腫瘍など)
- V 群 前立腺肥大症治療症例(経尿道的:高温度、凝固、切開、蒸散、核出術など)
- VI 群 外性器腫瘍症例(陰茎癌、尖圭コンジローマなど)

I～VI群の中からI群およびV群(必須)を含み3群以上を選択し、合計10症例呈示する。ただしI群およびV群については各2例以上を含むこと。

5. 眼科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 レーザー光凝固症例(糖尿病網膜症、網膜中心静脈閉塞症、網膜静脈分枝閉塞症、網膜裂孔など)
- II 群 後発白内障治療症例(ネオジウムYAGレーザーなど)
- III 群 レーザーによる緑内障治療症例(線維柱帯形成術、虹彩切開術など)
- IV 群 光線力学的治療症例(加齢黄斑変性症など)

I および II 群を必須項目とし、合計10症例を選択し、呈示する。
糖尿病網膜症に対する汎網膜光凝固術では、一連の治療を一症例とし、追加凝固は含まれない。また、両眼のものは、一眼毎、計2症例とすることが出来る。
III、IV群での症例で、I、II群の症例に代えることは可能とする。

6. 耳鼻咽喉科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 耳科領域症例(鼓膜切開術、慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、あぶみ骨手術など)
- II 群 鼻副鼻腔領域症例(アレルギー性鼻炎、肥厚性鼻炎、慢性副鼻腔炎、副鼻腔嚢胞、涙嚢鼻腔吻合術、後鼻孔閉鎖症、鼻出血、良性腫瘍など)
- III 群 口腔咽頭領域症例(アデノイド切除術、口蓋扁桃摘出術、口蓋垂・軟口蓋・咽頭形成術、舌根正中部分切除術、良性腫瘍、悪性腫瘍など)
- IV 群 喉頭気管領域症例(喉頭気管狭窄、喉頭肉芽腫、両側喉頭麻痺、喉嚢嚢胞、ポリープ様声帯、良性腫瘍、悪性腫瘍など)

I ～IV群の中からII群およびIII群(必須)を含み3群以上を選択し、各群の()内に示した術式あるいは疾患の中から合計10症例を選択し呈示する。
ただしII群およびIII群については各3例以上を含むこと。

7. 皮膚科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 異常メラニン系症例(母斑細胞母斑、太田母斑、扁平母斑、老人性色素斑、黒子など)
- II 群 異常血管系症例(単純性血管腫、莓状血管腫、毛細血管拡張症など)
- III 群 その他の皮膚疾患症例(疣贅、脂漏性角化症、線維腫など)
- IV 群 美容系症例(脱毛、小ジワ、タルミ、痤瘡瘢痕など)
- V 群 低レベルレーザー治療(LLLT)症例
- VI 群 光線力学治療症例

I ～VI群の中からI群およびII群を含み3群以上を選択し、合計10症例選択し呈示する。ただしI群は2例以上を含むこと。またII群も2例以上あることが望ましい。
I群、II群にあつては部位と大きさを問わない。

8. 形成外科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 異常メラニン系症例(母斑細胞母斑、太田母斑、扁平母斑、老人性色素斑、黒子など)
- II 群 異常血管系症例(単純性血管腫、莓状血管腫、毛細血管拡張症など)
- III 群 その他の皮膚疾患症例(疣贅、脂漏性角化症、線維腫など)
- IV 群 美容系症例(脱毛、小ジワ、タルミ、痤瘡瘢痕など)
- V 群 低レベルレーザー治療(LLLT)症例
- VI 群 光線力学治療症例

I ～VI群の中からI群およびII群(必須)を含み3群以上を選択し、合計10症例選択し呈示する。ただしI群およびII群については各2例以上を含むこと。
I群、II群にあつては部位と大きさを問わない。

9. 麻酔科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 頭痛、顔面痛症例（筋緊張性頭痛、後頭部痛、三叉神経痛、顔面神経痛など）
- II 群 脊椎由来の疼痛症例（各種脊椎症、頸肩腕症候群、神経根症、胸背部痛、腰下肢痛、椎間板ヘルニア、脊柱間狭窄症など）
- III 群 運動器由来疼痛症例（関節痛、筋肉痛、腱鞘炎など）
- IV 群 带状疱疹、带状疱疹痛、带状疱疹後神経痛の症例
- V 群 神経因性疼痛症例（複合性局所疼痛症候群、幻肢痛、レイノー病、振動病など）
- VI 群 血管因性疼痛症例（バージャー病、閉塞性動脈硬化症など）
- VII 群 難治性皮膚潰瘍症例（褥創、火傷後など）
- VIII 群 癌性疼痛関連愁訴症例（筋緊張などに由来する痛み）

I～VIII群の中からIIおよびIII群（必須）を含み3群以上を選択し合計10症例を提示する。

10. 整形外科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 疼痛緩和治療症例（関節痛、神経痛、滑液包炎、腱鞘炎、CRPSなど）
- II 群 血行改善治療症例（糖尿病性壊疽、レイノー症候群など末梢循環障害）
- III 群 創傷治療症例（褥創、肉離れ、難治性潰瘍、新鮮骨折など）
- IV 群 微小血管の止血、切開、組織の収縮・凝固症例（関節包収縮、外側支帯切離など）
- V 群 蒸散術症例（滑膜切除、関節内遊離体切除、椎間板除圧術など）
- VI 群 光線力学的治療症例（感染症治療、腫瘍治療など）

I～VI群の中から合計10症例を選択し、提示する。ただし各群は、3症例までとし、同一部位の再発症例については、同一症例とする。

11. 脳神経外科レーザー専門医の資格申請時における経験症例および症例数

- I 群 術中蛍光診断症例（脳腫瘍、血管など）
- II 群 光線力学的治療症例（脳腫瘍など）
- III 群 焼灼治療症例（脳腫瘍および椎間板ヘルニアなど）
- IV 群 凝固、切開症例など

I～IV群の中から合計10症例を選択し、提示する。
同一部位の再発症例については同一症例とする。

症例抄録番号: No.1

病名: 早期胃癌 [Ⅲ群]

治療開始年月日: ○年○月○日

指導施設または研修施設名: ○○○○○○

申請者氏名: ○○○○

指導責任者: ○○○○

カルテ番号: ×××××123

診療概略

68才 男性。

写真1 体下部小弯の 0—Ⅱa 型癌(高分化型腺癌)の色素内視鏡像(コントラスト法)。

表面は軽度の凹凸を認めるが、内視鏡治療の適応となる粘膜内癌と診断した。

写真2 出血傾向を認めるため EMR は困難と考え、Diomed 社製半導体レーザー(UDL30) 805nm にて15W、1回2秒の間欠照射(総エネルギー814J)を行った。その直後の通常内視鏡像である。

写真3 半導体レーザー照射後2年3カ月の色素内視鏡像。治療部は整った潰瘍瘢痕像を呈し、遺残は認められない。

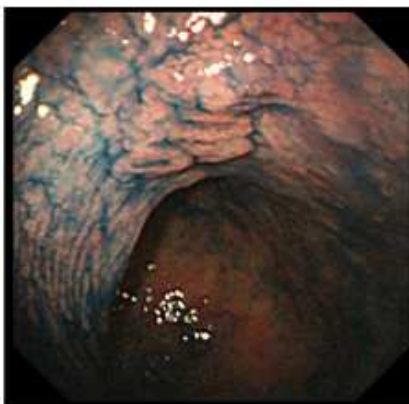


写真1 (○○年○月○日)



写真2 (○○年○月○日)

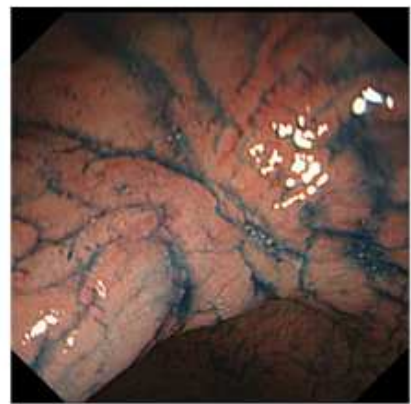


写真3 (○○年○月○日)

症例抄録番号:No.2

病名: 早期胃癌群 [Ⅱ群]

治療開始年月日: ○年○月○日

指導施設または研修施設名: ○○○○○○

申請者氏名: ○○○○

指導責任者: ○○○○

カルテ番号: ×××××123

診療概略

78才 男性。

写真1 体下前壁の0—Ⅱc型の早期胃癌(印環細胞癌)の通常内視鏡像。

写真2 OLYMPUS 社製自家蛍光内視鏡装置(EVIS LUCERA SPECTRUM, XGIF-Q240FZ) 励起波長390~470nm、自家蛍光検出波長500~630nm による蛍光内視鏡像。本癌部はマゼンダ色、周囲の非癌粘膜は緑色を呈し、その境界部は明瞭である。本症例は腹腔鏡下手術が施行された。



写真1 (○○年○月○日)

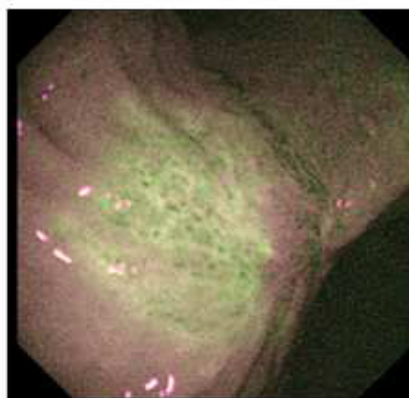


写真2 (○○年○月○日)

抄録番号:No.3 (U. K.)

病名:子宮頸癌 I a 期

治療年月日:○年○月○日

指導施設または研修施設名:○○○○○

申請者氏名:○○○○

指導責任者:○○○○

カルテ番号: ×××××123

治療概略 : ○歳。子宮頸部微小浸潤癌にて下記のごとく光線力学療法(PDT)施行。

PDT 施行時の使用薬剤名および投与量: フォトフリン 2mg/kg 静脈注射

薬剤投与後、治療用レーザー照射までの時間: 48 時間

レーザーの種類 : エキシマ・ダイ・レーザー (浜松ホトニクス社製 PDT-EDL-1)

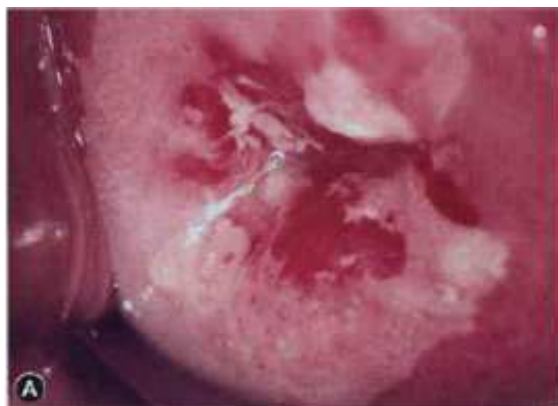
レーザーの波長、周波数 : 630nm、40Hz

レーザー出力 : 100J/cm²

レーザーの総照射量: コルポ照射 1650.6 J + 頸管照射 323.2 J = 総照射量 1973.8 J

治療回数 : 1 回

PDT 後 3 ヶ月目の細胞診、コルポ診、組織診による治療効果判定:CR



レーザー治療前 1997.4.22



レーザー治療後 1997.10.14

【泌尿器科症例見本】

症例抄録番号: No.1

病名:右尿管結石(Ⅰ群)

治療開始年月日:2007年12月4日

指導施設または研修施設名:○○○○○

申請者氏名:○○○○○

指導責任者:○○○○○

カルテ番号: ×××××123

診療概略: ○歳 男性。 経尿道的尿管結石レーザー碎石術(TUL - laser)

結石サイズ 21 x 12 mm 結石成分 CaOX + CaP

治療はルミナス社製 Ho:YAG レーザー (バーサパルスセレクト 80W)

(2100nm、0.5-0.8J、5-10Hz)を使用

総照射量: 2.82kJ

術後 残石なし。



術前腎・膀胱部単純写真
(2007年11月26日)



術後腎・膀胱部単純写真
(2007年12月25日)

(注) 必ず 術前と術後のレントゲン写真を付けること。

症例抄録番号: No.8

病名: 前立腺肥大症(V群)

治療開始年月日: 2005年2月9日

指導施設または研修施設名: ○○○○○

申請者氏名: ○○○○

指導責任者: ○○○○

カルテ番号: ×××××123

診療概略: ○歳 男性。

手術名 ホルミウムレーザー前立腺核出術(HoLEP)

術前前立腺容積 77mm 核出重量 61g 出血量 163.1g

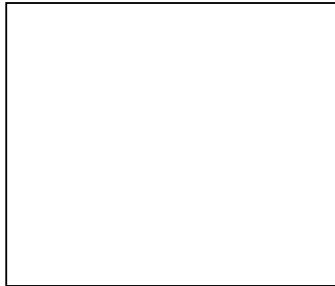
または Hb 減少量 0.8g/dl

治療はルミナス社製 Ho:YAG レーザー (バーサパルスセレクト 80W)

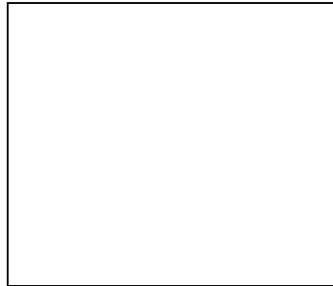
(2100nm、2.0J、40Hz)を使用

総照射量: 239.49kJ

術後 IPSS, QOL, Qmax 良好となる。



術前経直腸的超音波断層撮影
(2004年10月7日)



術後経直腸的超音波断層撮影
(2005年3月8日)

(注) Nd:YAG レーザーによる VLAP でも、Ho:YAG レーザーによる HoLAP でも、
KTP レーザーによる PVP でも良い。

必ず 術前と術後の写真、レントゲン写真、エコー像を付けること。

症例抄録番号:No.○

病名: 太田母斑[疾患分類Ⅰ群]

治療開始年月日:○○年○月○日

指導施設名または研修施設名:○○○○○

申請者氏名:○○○○

指導責任者:○○○○

カルテ番号: ×××××123

診療概略:

1歳女児。生下時からの左側頭部の太田母斑にて来院された。SPECTRUM 社製 Q スイッチルビーレーザー (RD1200) (694.3nm、5J/cm²、28ns、6.5mm φ)にて3ヶ月ごとに3回治療した。治療後は遮光指導を十分に行った。最終治療後4ヶ月にて著明な改善を認めている。



図1 初診時
(○○年○月○日)



図2 最終治療より4ヶ月
(○○年○月○日)

症例抄録番号:No.○

病名:単純性血管腫[疾患分類Ⅱ群]

治療開始年月日:○○年○月○日

指導施設名または研修施設名:○○○○○

申請者氏名:○○○○

指導責任者:○○○○

カルテ番号: ×××××123

診療概略:

9歳女児。生下時より右頬部に認めた単純性血管腫にて受診された。CANDELA 社製パルス色素レーザー (SPTL1b) (585nm、6.5J/cm²、0.45ms、7mmφ)にて4ヶ月ごとに3回治療した。治療後一過性の炎症性色素沈着を認めたが、外用療法および遮光指導にて改善した。3回治療後6ヶ月にて若干の血管腫の残存を認めるため、追加照射の予定である。



図1 初診時
(○○年○月○日)



図2 3回治療後6ヶ月
(○○年○月○日)

症例抄録番号:No.○

病名:アートメイク[疾患分類Ⅳ群]

治療開始年月日:○年○月○日

指導施設名または研修施設名:○○○○○

申請者氏名:○○○○

指導責任者:○○○○

カルテ番号: ×××××123

診療概略:

42 才女性。30 代の頃に上下眼瞼睫毛部にアートメイクを入れたが、アートメイクの形の修正希望にて当院受診された。CANDELA 社製 Q スイッチアレキサンドライトレーザー (ALEXLAZR) (755nm、10J/cm²、50ns、2mm φ)にて3ヶ月ごとに3回治療を行った。写真は最終治療後6ヶ月を示す。アートメイクの部分の除去がなされ、自然なラインが再現されている。

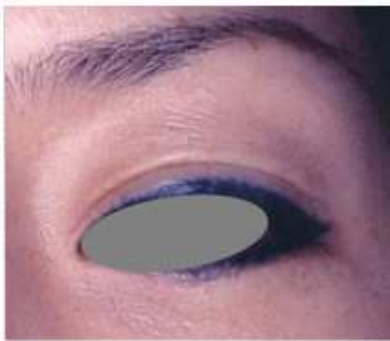


図1 初診時(左側)
(○○年○月○日)

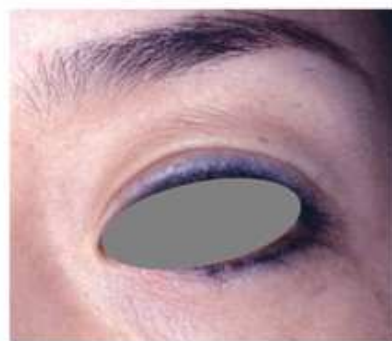


図2 最終治療後6カ月(左側)
(○○年○月○日)

抄録番号:NO. 4

病名: 肺癌(右側気管支)

治療年月日: 2004 年 10 月 5 日

指導施設または研修施設名: ○○○○○

申請者氏名: ○○○○

指導責任者: ○○○○

カルテ番号: ×××××123

(治療概略) 81 才の男性。右上葉肺癌のために光線力学的治療を施行した。右上葉気管支 B1, 2 の分岐部にポリープ状の扁平上皮癌をみとめた(写真1)。2004 年 10 月 5 日に腫瘍親和性光感受性物質レザフィリン(明治製菓株式会社)を 40 mg/m^2 (56 mg)を静脈投与し、4時間後に気管支鏡下に直射ファイバーにより、664nm の赤色レーザーを腫瘍に照射した。以下のレーザー照射条件により、スポット径は約 8mm で総エネルギー100J 照射した。

レーザーの種類: PD-レーザー (664 nm)、連続波(松下電器産業株式会社)

治療に使用したレーザー出力: 150 J/cm^2

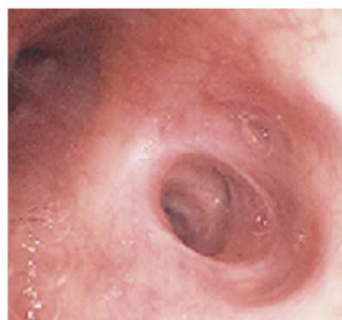
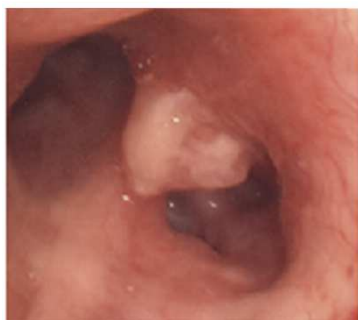
治療に使用した照射パワー: 150 mW

照射時間: 11 分 7 秒

総エネルギー: 100 J

(治療後)

PDT 施行3か月後の内視鏡写真を図2に示しました。右上葉気管支 B1, 2 分岐部のポリープ状の扁平上皮癌は消失し、粘膜所見は整で、組織学的検査により CR(complete response)を確認した。



レーザー治療前 2004.10.5 (写真 1)

レーザー治療後 2005.1.18(写真 2)

抄録番号:NO. 10

病名:肺癌

治療年月日:2005年1月22日

指導施設または研修施設名:〇〇〇〇〇

申請者氏名:〇〇〇〇

指導責任者:〇〇〇〇

カルテ番号: ×××××123

(治療概略):〇歳 男性。進行肺癌(扁平上皮癌、C-T3N2M1 stageIV)のために、右主気管支～右中間幹にかけて狭窄をみとめ、呼吸困難を呈していた。リンパ節を介した壁外から気管支壁内への浸潤による気道狭窄のために、2006年6月23日に緊急入院となった。(写真1)

2006年6月24日に硬性鏡下にレーザー焼灼術施行し、気道開大術試行した。ダイオードレーザー(UDL-60、オリンパス社製)を用いて、総エネルギー2646 Jの照射を施行した。

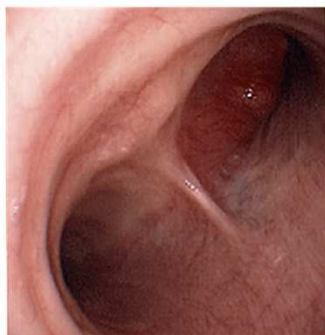
レーザーの種類:ダイオードレーザー UDL-60(波長:810 nm、連続波、オリンパス社)

治療に使用したレーザー出力(Fluence):40 W

治療に使用した総エネルギー: 2646 J

(治療後の経過)

治療約4ヵ月の後内視鏡写真を図2に示します。右主気管支～中間幹にかけてみとめた腫瘍は、退縮し、粘膜は整、気道狭窄所見は軽快している。



レーザー治療前 2006年6月24日(写真1)



レーザー治療後 2006年10月21日(写真2)

